



## 「名村テクニカルレビュー」 第24号発刊に際して

取締役 執行役員 向 周

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るう中、2020年から一年延期して東京オリンピックが開催されました。前回1964年に日本で開催された際はオリンピック景気といわれる高度経済成長のなかの好景気となり日本中が沸きましたが、コロナ禍での異例の無観客での開催のなか日本は史上最多のメダル数を獲得したものの、これまで私たちが目にしてきたオリンピックとは全く異なる形となりました。

最近では「数十年に一度」、「記録的な」といわれる自然災害が頻繁に発生するようになり、今夏も全国的な豪雨による土砂災害、水害など広範囲にわたる被害が相次いでおります。一方、世界に目を向ければ大規模な森林災害等も発生しており、改めて自然の恐ろしさを実感しています。このような自然災害は地球温暖化との関係も深く、世界的な地球温暖化対策、カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量実質ゼロ）への気運が高まっており、日本においても脱炭素社会に向けて2020年10月「2050年カーボンニュートラル宣言」が発出されました。

当社の主力事業である新造船事業の業界環境においても、今世紀中のゼロエミッションに向けて温室効果ガスの排出量の段階的な削減が求められており技術革新が急速に進むと予想されます。船舶における技術革新を進めるにあたり2019年4月に新設した技術開発センターを中心として、2021年は水素燃料電池船への取り組みやLPG/重油2元燃料対応のLPG・アンモニア運搬船の建造契約締結など脱炭素社会に向けて新たな分野への挑戦に取り組み、様々な技術を結集させ、カーボンニュートラルなどの社会的なニーズに対応してまいります。

2020年12月に発表されたグリーン成長戦略の中で2050年に向けて成長が期待される重点分野の一つとして「船舶」は選定されております。お客様、社会のニーズに対応した次世代船舶および橋梁等の大型物件など最新鋭の製品を遅滞なくお客様にお届けするために、当社技術陣は新たな分野・視点・技法の研鑽に全身全霊で取り組んでおり、その成果をご支援頂いている皆様に広くお知らせするために、また技術の蓄積を暗黙知から形式知とするためにも、本誌の継続発行は大きな意味が有ると考えております。

本誌をご愛読頂いております皆様のご指導ご鞭撻が、大きな励みとなりますので、今後も変わらぬご意見をお願い致します。